

2月 2日(日) ショートメッセージ

聖書 創世記 28章10節～22節 (旧約 46頁)

メッセージ 「この石を神の家に」

わたしが記念碑として立てたこの石を神の家とし、すべて、あなたがわたしに与えられるものの十分の一をささげます。(創世記 28章22節)

(1)『讚美歌21』434番「主よ、みもとに近づかん」は「神の招きと応答」の項目に入っていますが、葬儀の時によく歌われる讚美歌です。十字架の道、苦難の中にある時こそ、私たちの歌は「主よ、みもとに近づこう」である。そしてその思いは、旧約聖書のヤコブの祈りと響き合う祈りの言葉である。やがて天に召される時、私たちは「主よ、みもとに近づこう」と歌おう。苦難の中から、神の招きに答えて信仰を告白する讚美歌、それが434番です。

(2) 本日、日本基督教団聖書日課の旧約聖書の箇所では選ばれているのは、434番2節から4節で歌われている族長ヤコブの物語です。ヤコブは聖書の民の父祖であるアブラハムの孫にあたります。

アブラハムからイサクへと引き継がれた神の祝福と財産は、本来イサクの長男であるエサウが引き継ぐはずでした。ところが弟のヤコブは目が見えなくなっていた父を欺き、自分はエサウだとウソをついて神の祝福を父から受けてしまいます。もう取り消すことは出来ません。父からの祝福を奪われた長男エサウは憤り、弟ヤコブを殺害しようと決意します。そこでヤコブはハランにいる叔父の元へと逃れていきました。

逃亡中のヤコブがある場所にきた時のことです。日も沈んだので、彼は休むことにし、そこにあった石を枕にして眠りにつきました。するとこんな夢を見ました。地上から天に届く階段があり、その階段を主の使いたちが上ったり下ったりしてしまし

た。すると主がヤコブの傍らに立ち彼に祝福の言葉を語りました。「あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。」(13節)「あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。」(14節)「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」(15節)

眠りから覚めたヤコブは、恐れおののきながら「ここは、なんと畏れ多い場所だろう。これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ。」(17節)と言いました。翌朝ヤコブは枕にしていた石を記念碑として立て、先端に油を注いで清めると、これまでこの場所はルズと呼ばれていましたが、彼はこの場所をベテル、神の家と名付けました。

(3) ヤコブはこの夢を見た後、神が自分を守って下さるなら、この記念碑を神の家、神殿とし、自分に与えられたものの十分の一を神に捧げるとの誓願を立てました。夢を通して神が近づいて下さったことに恐れおののいた彼でしたが、神のみもとに近づこうとした彼の祈りから出た誓願でした。

讚美歌434番の「主よ、みもとに近づかん」との願いと祈りが私たちの願い、祈りとなりますように。(多田玲一牧師)